

# 重点推進項目の進捗状況

## 重点推進項目とは

安城市環境基本計画の重点推進項目は、本市の望ましい4つの環境像である『共生』『循環』『地球環境』『協働』の実現に向けて、具体的施策の中から、特に全体を効果的に推進し、市民・市民団体・事業者・市のパートナーシップで行動するためのもので、20項目を定めています。

いずれも成果指標に2010年度を目標年度とした具体的な数値や、取組主体として市・市民・市民団体・事業者の役割等を示すことから同計画のリーディングプロジェクトと位置づけています。

# 共生

## 農業の有する多面的な機能（自然環境の保全、水源のかん養、良好な景観の形成等）を発揮できる農地の保全

### ◆目的

優良農地の保全を図るため、国土利用計画法、農業振興地域の整備に関する法律及び農地法などに基づき、計画的かつ長期的な土地利用を進める。

### ◆長期目標

◎ 2020年に3,630haの農地を確保する。

### ◆内容

- ・耕作放棄地及び遊休農地の解消及び生産緑地の確保のため、市民農園・家庭菜園等の活用方法及び支援策について検討する。
- ・利用権設定等により農地の利用集積を推進し、耕作放棄地の抑制を図る。
- ・耕作放棄及び無断転用の抑制のため、農地パトロールを強化する。

### ◆成果指標

成果指標名	単位	基準値 (2004年)	実績 (2010年)	目標値 (2010年)
農地面積	ha	4,033	3,844	3,840

### ◆平成 22 年度の取組状況

#### 安城市アグリライフ支援センターの運営

##### ●設置目的

市民が「農」を楽しむまちづくりをめざす「安城アグリライフ構想」を総合的に推進する拠点であり、「農」ある暮らしを実践する人材育成の場として設置

##### ●施設概要

施設の名称 安城市アグリライフ支援センター  
所在地 安城市石井町辻原 131 番地 2 電話 92 - 6200  
開所日 平成 21 年 8 月 26 日

##### ●平成 22 年度事業内容

- (1) 野菜づくり入門コース
- ・第 2 期生（春夏野菜づくり）  
平成 22 年 4 月 2 日～平成 22 年 8 月 6 日 受講者 30 名
  - ・第 3 期生（秋冬野菜づくり）  
平成 22 年 8 月 25 日～平成 23 年 1 月 28 日 受講者 30 名

(2) 体験・スポット講座

##### 【体験農場】

- ・トウモロコシもぎ取り体験  
平成 22 年 7 月 17 日 参加者 31 人  
(石井町子ども会)
- ・サツマイモ収穫体験  
平成 22 年 10 月 22 日 参加者 40 組 92 人  
(赤松保育園)
- 平成 22 年 11 月 4 日 参加者 23 組 54 人  
(療育センター)



野菜づくり「入門コース」実習風景

## 【スポット講座】

- ・親子栽培体験（ジャガイモの植付、収穫）  
平成 22 年 9 月 4 日（植付）、11 月 27 日（収穫）  
参加者 18 組 56 人
- ・プランター野菜栽培体験  
（サニーレタス、ブロッコリー等の寄せ植え）  
平成 22 年 9 月 11 日 参加者 15 組 19 人
- ・親子プランターいちご栽培体験  
平成 23 年 3 月 12 日 参加者 23 組 61 人



親子プランターいちご栽培体験

## 緑道の整備・拡充

## ◆目的

明治用水等の水路敷上部を利用した緑道整備により緑のネットワークを形成し、農村と市街地との交流の促進を図る。

## ◆長期目標

◎ 2014 年までに緑道を 28km まで整備する。

## ◆内容

・花の木用水及び西徳用水の上部を利用した緑道整備を 2009 年までに計 1.0km、2014 年までに計 2.0km の施工をする。

## ◆成果指標

成果指標名	単位	基準値 (2004 年)	実績 (2010 年)	目標値 (2010 年)
緑道（自転車歩行者道）の整備	km	26.0	29.8	28.0

## ◆平成 22 年度の実施状況

## 西徳用水の緑道整備

西徳用水の水路敷上部を利用して、緑道を整備。歩行者、自転車にとって安全で快適な空間を創出した。

## ●整備概要

延長 L = 110m

幅員 W=4.0m ~ 6.0m



西徳用水（桜井町ほか）

## 電線類の地中化促進

### ◆目的

電線類の地中化により、良好な都市空間を創出し、災害に強いまちづくりを推進するとともに、道路のバリアフリー化による歩行者・自転車の通行の安全を図る。

### ◆長期目標

◎電線類を地中化した道路整備延長を 2014 年までに 3,500 m 整備する。

### ◆内容

・安城駅前地区は、市の中心市街地として位置づけられており、商工会議所及び地元関係者を主体として利用者の観点を含めた安全で快適な道路の在り方の議論を受け、電線類の地中化及び歩道環境を改善する。

### ◆成果指標

成果指標名	単位	基準値 (2004 年)	実績 (2010 年)	目標値 (2010 年)
電線類地中化道路整備延長	m	1,240	1,770	2,800

### ◆平成 22 年度の取組状況

#### 市道御幸本上条線および市道御幸本 1 号線のバリアフリー化工事

##### ●整備概要

##### ・整備目的

電柱・電線類を地中化し、道路のバリアフリー化をすることにより、安全で快適な歩行空間を確保し、美しい都市景観の形成を図る。

##### ・22 年度の事業内容

前年度に電線類地中化を行った道路のバリアフリー化工事を行った。

バリアフリー化整備延長 L=280m



## 市民等による道路、公園等での環境保全活動の支援

### ◆目的

環境美化地域を清掃するボランティア団体を募集し、清掃用具の貸与等の支援を行う。また、公園等での樹木保全活動を行う緑を守る市民団体等へ情報提供や交流機会の提供の支援をする。

### ◆長期目標

- ◎アダプト団体数を2020年までに50団体にする。
- ◎緑を守る団体数を2020年までに145団体にする。

### ◆内容

- ・環境美化を行うボランティア団体を募集し、そのボランティアが道路や公園、河川などの公共施設において、活動の地域を自ら決めて、市と協定等を交わし、清掃・美化活動を行う。
- ・市は、団体に対して清掃用具、ベスト等の貸与、傷害保険の加入、看板の設置などの活動支援や他団体と交流の機会を提供する。

### ◆成果指標

成果指標名	単位	基準値 (2004年)	実績 (2010年)	目標値 (2010年)
アダプト団体数	団体	14	37	35
緑を守る団体数	団体	115	141	142

### ◆平成22年度の取組状況

- ・アダプト団体数 PR及び愛知県のアダプトプログラムとの連携により加入団体が増加した。
- ・緑を守る団体数 新たに新明東栄線街路樹愛護会が設立された。

## 都市計画道路における街路樹の整備

### ◆目的

みどり香るサステナブルタウン桜井の実現のため、桜井駅周辺特定土地区画整理事業地区内の都市計画道路の築造には、地域のテーマに合った街路樹の整備を進める。

### ◆長期目標

- ◎成果指標に同じ。

### ◆内容

- ・桜井北線の名鉄西尾線以西の400m、南安城桜井線の1,200m、桜井南線の名鉄西尾線以西400mについて、2010年度までに整備する。

### ◆成果指標

成果指標名	単位	基準値 (2004年)	実績 (2010年)	目標値 (2010年)
桜井地区土地区画整理内 都市計画道路の街路樹整備	m	0	1,400	2,000

### ◆平成22年度の取組状況

- ・南安城桜井線の135mを整備した。

## 市民との協働による公園整備

### ◆目的

住民参加によるワークショップ形式での公園整備を推進することで、完成後も公園を身近な存在として認識し大切に愛着をもって利用してもらうことを目的とする。

### ◆長期目標

◎成果指標に同じ。

### ◆内容

・住民参加によるワークショップ形式での新規公園整備を2010年には31か所にする。

### ◆成果指標

成果指標名	単位	基準値 (2004年)	実績 (2010年)	目標値 (2010年)
ワークショップ形式による 公園整備数	か所	19	31	31

### ◆平成22年度の取組状況

#### ワークショップ形式による公園整備

安城桜井駅周辺特定土地区画整理事業によって計画されている9号公園（金政公園）の計画づくりを地域住民が参加して行った。

#### ●金政公園計画概要

計画地：安城市小川町金政地内（安城桜井駅周辺特定土地区画整理事業地内）

面積：1,700㎡



# 循環

## 公共下水道の普及率向上及び接続促進

### ◆目的

公共下水道整備を計画的に行い、接続を促進し、汚水が速やかに排除されることにより、周辺環境が向上し、便利で快適な生活を享受できることをめざす。

### ◆長期目標

- ◎下水道普及率を2020年までに80%にする。
- ◎下水道水洗化人口を2020年までに136,000人にする。

### ◆内容

- ・油ヶ淵流域を始め市内の公共下水道整備を計画的に進めるとともに、供用開始区域内の水洗化を図るための事前説明会、未接続者の戸別訪問とアンケート調査並びに水洗便所改造資金無利子融資斡旋等を行う。

### ◆成果指標

成果指標名	単位	基準値 (2004年)	実績 (2010年)	目標値 (2010年)
下水道普及率	%	54.1	71.6	71
下水道水洗化人口	人	73,500	110,983	103,000

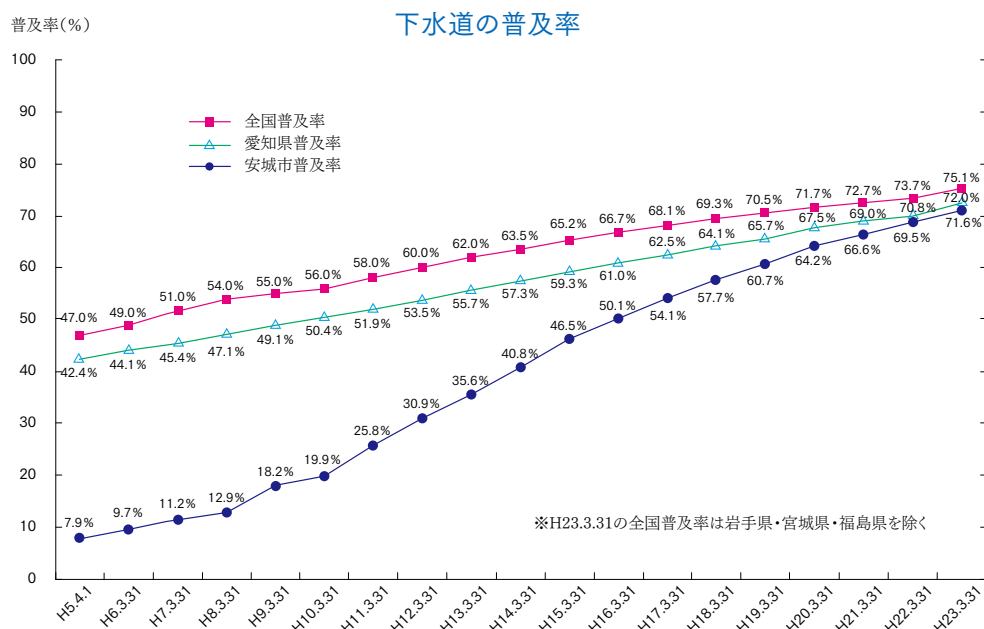
### ◆平成22年度の取組状況

#### 下水道整備及び接続促進

本市の公共下水道は、愛知県が事業主体である「矢作川・境川流域下水道」に接続する流域関連公共下水道として発足し、処理区は3つ（矢作川、境川、衣浦東部処理区）に分かれている。

公共下水道は、平成5年4月の矢作川処理区の供用開始から、平成8年度には境川処理区、平成10年度には衣浦東部処理区の供用を開始し、順次供用地区を拡大している。

平成22年度は3処理区で新たに60haの区域で下水道が使えるようになった。平成23年3月31日現在、行政人口181,302人に対し、処理区域内人口は129,743人となり、人口普及率は71.6%、水洗化人口は110,983人と着実に増加している。



## 生活排水等に関する監視、指導及び実践事業

### ◆目的

生活排水対策モデル地区として指定し、学習会やアンケート調査を行い、1か月間実践活動することで、家庭からの生活排水に対する意識を高め、浄化対策の実践を促す。

### ◆長期目標

◎生活排水対策モデル地区として指定した町内会を2020年度までに延べ33町内会にする。

### ◆内容

- ・毎年1町内会を生活排水対策モデル地区として指定し、1か月の実践活動を行ってもらう。学習会を開催するとともに事前・事後アンケートを実施する。
- ・各アンケート集計結果を実施住民へ周知するとともに、今後も生活排水対策実践活動の継続実施を呼びかける。

### ◆成果指標

成果指標名	単位	基準値 (2004年)	実績 (2010年)	目標値 (2010年)
生活排水対策モデル地区 指定町内会数（累計）	町内会	17	23	23

### ◆平成22年度の実施状況

#### 生活排水対策モデル地区事業

##### ●内容

市内を流れる追田川流域の石井町内会地域を生活排水対策モデル地区として指定し、実践活動を中心とした生活排水対策を実施（7月）。

水質浄化実践啓発用品配布、アンケート調査（2回）、学習会（1回：約60人）



学習会の様子





## レンタサイクルの推進

### ◆目的

放置自転車のリサイクルを進めてレンタサイクルとして利用すると同時にサイクルポートを増設して自転車の利用頻度を上げる。

### ◆長期目標

◎ 2020年までにレンタサイクル事業のサイクルポートを13か所にする。

### ◆内容

- ・年間1000台を超える放置自転車をレンタサイクルとして有効的に活用する。
- ・中心市街地等への来訪手段を自動車からレンタサイクルに転換することで、自動車交通量の削減を図り大気環境の改善に寄与する。
- ・より利用しやすい環境を整えるためにサイクルポートの数を順次増設する。

### ◆成果指標

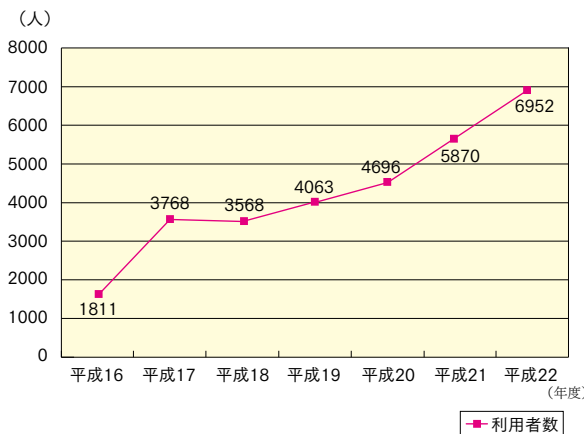
成果指標名	単位	基準値 (2004年)	実績 (2010年)	目標値 (2010年)
レンタサイクル事業の サイクルポート数	か所	3	10	10

### ◆平成22年度の取組状況

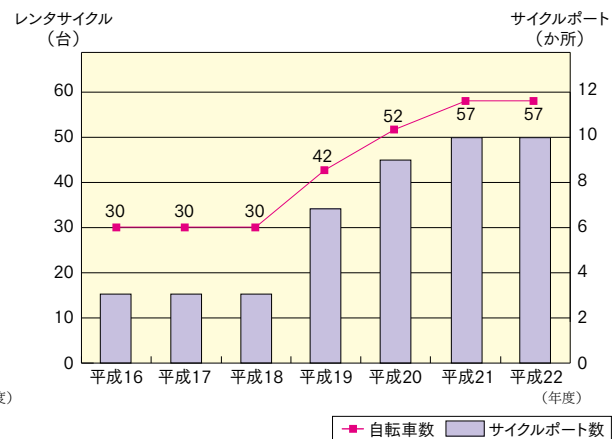
#### レンタサイクル事業の継続

健康的で経済性に優れ、環境にやさしい自転車の利用促進を図るため、市内10か所でレンタサイクルを実施。

レンタサイクル利用者数の推移



サイクルポート数と自転車数の推移



レンタサイクルポート（堀内公園）

## エコサイクルシティ計画の推進

## ◆目的

利便性や機動性、環境負荷の軽減など自転車の持つ機能を再認識し、本市の資源である明治用水緑道を中心に活用するエコサイクルシティ計画を策定することにより、自転車によるまちづくりを推進する。

## ◆長期目標

◎明治用水緑道の利用者の割合を2014年までに51%にする。

## ◆内容

- ・自転車道が縦横に整備され、自転車での公共施設や中心市街地へのアクセスを円滑にするため、明治用水緑道を機軸として既存道路、歩道を活用し、快適に通行できるネットワークを構築する。
- ・自転車利用における安全性を確保するため、自転車に十分配慮した道路の改修、整備を行う。
- ・市民の日常的な交通手段として広く自転車の利用促進を図る。
- ・市民に自転車の運転マナー、交通安全に対する正しい知識を普及するため、自転車安全教室を充実する。

## ◆成果指標

成果指標名	単位	基準値 (2004年)	実績 (2010年)	目標値 (2010年)
明治用水緑道の利用者の割合	%	—	未調査	47.0

## ◆平成22年度の取組状況

## 自転車サイン計画に基づく歩道の整備

平成20年度に策定した自転車サイン計画に基づき、豊田安城自転車道にて路面表示の整備を行った。



## 各種イベントへの参加

多くの市民が自転車を利用するメリットに気づくためのきっかけづくりとして、サンクスフェスティバルにてパネル展示により自転車の特性についてのPRを行うとともに、自転車の安全利用を図るため、自転車安全整備士による自転車整備アドバイスとTSマークの紹介等を行った。また、エコライフフェアに参加し、自転車購入費補助についてPRするとともに、自転車の安全利用についてのPRを行った。



サンクスフェスティバル



エコライフフェア in さくの

## ごみの減量化に向けた ライフスタイル変革のための啓発

### ◆目的

環境行動実践事項を市民とともに作成し、目標値の設定と実践事例の紹介を通してライフスタイルの変革を図る。

### ◆長期目標

◎ 2020年までに1人1日あたり家庭系ごみ排出量を600g以下にする。また、事業系ごみも含めた全体排出量を900g以下にする。

### ◆内容

・市民のごみ減量実践事項について、市民の視点からアイデアを募集し、計画(目標値)の作成、実践の具体策の明示、実践事例の紹介(ホームページ・広報等)を行う。

### ◆成果指標

成果指標名	単位	基準値 (2004年)	実績 (2010年)	目標値 (2010年)
1人1日あたり家庭系ごみ排出量	g	739	692	640

### ◆平成22年度の取組状況

#### ごみ減量・分別説明会

ごみ減量20%を達成するため、ごみ減量や分別の必要性、生ごみ減量の具体的方法など、各町内会や集合住宅、市民活動団体の会合などで延べ71回の説明会を実施した。

#### ごみ減量20%ラストスパートキャンペーン

ごみ減量を市民に直接呼びかける市長による街頭キャンペーン、リサイクルステーションでのごみ分別相談、生ごみ処理機器の出張説明会などをラストスパートキャンペーンとして実施した。

#### ごみ減量状況の見える化

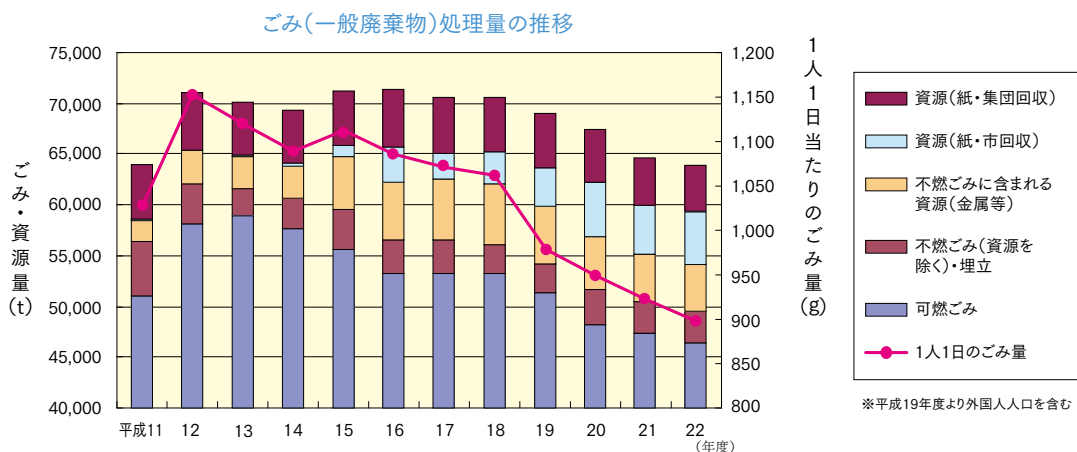
全市民がごみ減量に関心を持ってもらうため、目標と減量成果を市民が多く利用する市有施設に看板を設置したり、広報あんにょうに掲載するなど、ごみ減量の達成状況を周知することで、ごみ減量の促進を図った。

#### 拠点回収施設の開業体制を拡大

御幸本町リサイクルステーションの開業体制を土日から毎日開業に変更し、資源ごみの回収促進を図った。

#### ごみ減量推進委員会

ごみ減量20%の達成には、市民のみなさんが主体的に減量に取り組む必要があることから、市民の立場で幅広い議論を重ねていただくことで、具体的で実効性のある方策とすることができるとの思いから市民代表の委員で構成する「ごみ減量推進委員会」を設け定期的に開催している。平成22年度は4回開催した。



## 環境保全型農業への転換支援及び情報提供の充実

## ◆目的

農薬・化学肥料の使用量を削減し、環境への負荷を低減する。

## ◆長期目標

◎農薬、化学肥料の使用量について、1999年度を基準として2010年までに30%削減する。

## ◆内容

・年1回農薬販売量を調査するとともに作物の栽培こよみを減農薬・減化学肥料による栽培方法として作成し、農家に配布する。

## ◆成果指標

成果指標名	単位	基準値 (2004年)	実績 (2010年)	目標値 (2010年)
農薬の使用量の削減率	%	27.2	37.9	30.0
化学肥料の使用量の削減率	%	25.7	33.9	30.0

## ◆平成22年度の取組状況

・衣浦東部広域行政圏環境と安全に配慮した農業推進協議会に働きかけ。

## 地産地消の推進

## ◆目的

地域で生産された農産物を地域内で消費拡大するため地産地消を進め、地域農業の活性化、安全安心な給食や食生活を推進する。

## ◆長期目標

◎給食における地元農産物の購入割合40%を維持する。

## ◆内容

・給食物資検討会において地元農産物の積極的な採用を進める。

## ◆成果指標

成果指標名	単位	基準値 (2004年)	実績 (2010年)	目標値 (2010年)
給食における地元農産物の 購入割合	%	40.0	43.0	40.0

## ◆平成22年度の取組状況

・毎月開催の給食物資検討会で、地場産項目を別に設け地元農産物を積極的に採用。

## 地球環境

### 市の率先行動の実施と地球温暖化対策実行計画の推進

#### ◆目的

市役所が率先して、地球温暖化に取り組むことで、民間レベルの地球温暖化対策を推進する。

#### ◆長期目標

◎市施設から排出される温室効果ガスの総排出量（二酸化炭素換算値）を2010年までに1998年度比で6%の削減を図り、継続的に維持する。

#### ◆内容

- ・市主要施設に財団法人 省エネルギーセンターのESCO事業の積極的な活用を検討し、省エネルギー機器の導入を図る。
- ・太陽光発電システムを公共施設に継続的に導入する。

#### ◆成果指標

成果指標名	単位	基準値 (2004年)	実績 (2010年)	目標値 (2010年)
市施設から排出される 温室効果ガスの総排出量 (二酸化炭素換算値)	t	27,108	25,060	24,397

#### ◆平成22年度の取組状況

##### 公共施設への新エネルギー導入

市が率先して新エネルギーの導入を進めている。平成22年度は安城中部小学校(20kW)、安城南部小学校(20kW)、明和小学校(20kW)及び作野小学校(20kW)に太陽光発電設備を設置した。



太陽光パネル（作野小学校）

##### 壁面緑化の推進

市内に緑のカーテンを広げるため、市役所本庁舎で壁面緑化に取り組んだ。



## 太陽光発電設備の積極的な活用の推進

### ◆目的

太陽光発電設備を設置することで地球温暖化対策、エネルギー対策を進める。

### ◆長期目標

◎市内における太陽光発電設備容量を 2020 年までに 3,200kW にする。

### ◆内容

- ・太陽光発電設備についての最新情報や国の動きを市民及び事業者がすばやく把握できるよう情報提供に努める。
- ・温室効果ガスである二酸化炭素の排出量を削減する手段として、クリーンエネルギーの代表である太陽光発電設備を市内の一般家庭に早期に普及させるための事業として住宅用太陽光発電報奨金制度等を実施する。

### ◆成果指標

成果指標名	単位	基準値 (2004 年)	実績 (2010 年)	目標値 (2010 年)
市内における太陽光発電設備容量	kW	1,204	7,300	2,890

### ◆平成 22 年度の取組状況

#### 住宅用太陽光発電システム設置補助

住宅用太陽光発電システムの設置に補助金（平成 20 年度までは報奨金）を交付している。

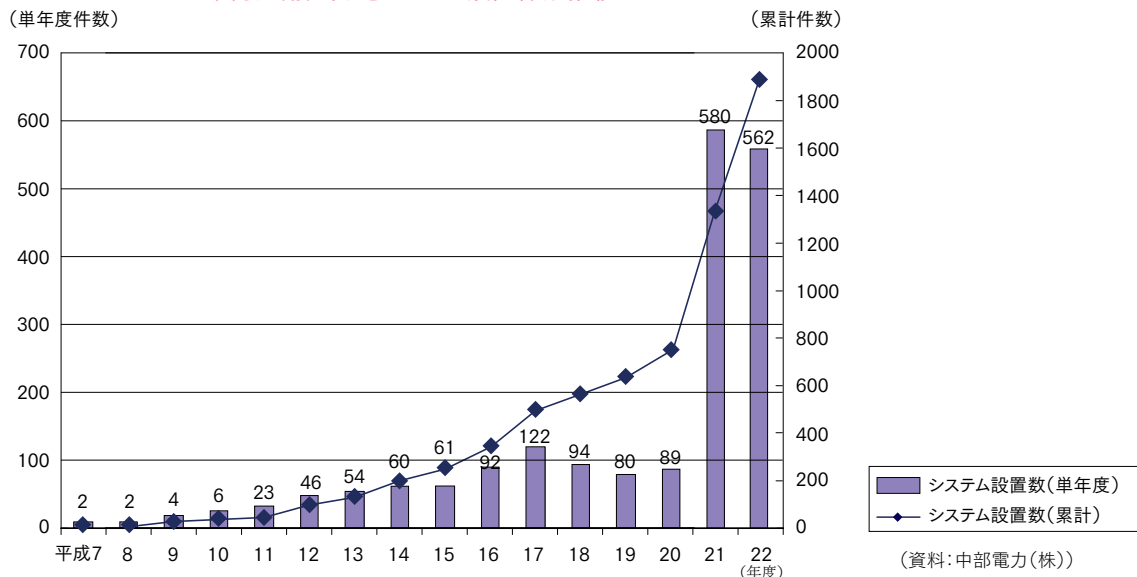
中部電力(株)と売電契約を締結した件数は平成 22 年度に 562 件あり、延べ設置件数は 1,877 件、設備容量は約 7,300kW（平成 22 年度末現在）となっている。

平成 18 年度からは、住宅用太陽熱高度利用システム報奨金制度（平成 21 年度から補助金に変更）も開始した。



住宅用太陽光発電システム

市内太陽光発電システム設置件数推移



## 環境配慮型公共工事の推進

### ◆目的

公共工事において、建設廃棄物の再生材料の利用など、市が率先して環境負荷を低減するための配慮を徹底する。

### ◆長期目標

- ◎公共工事で使用する砕石及びアスファルトコンクリートの再生材料利用率を2020年までに98%にする。
- ◎公共工事で発生する土の再利用率を2020年までに98%にする。
- ◎熱帯木材製型枠に替わる型枠の使用率を2020年までに70%にする。
- ◎公共工事で使用する再生品（あいくる材）の率先使用を継続し使用工事件数率を2020年までに99%にする。
- ◎総合評価落札方式の導入検討において、工事発注規模に適する簡易型を主に進める。

### ◆内容

- ・公共工事においては、建設廃棄物のリサイクル、建設発生土の搬出量抑制及び有効利用、熱帯木材製コンクリート型枠の使用抑制、あいくる材の利用、環境に配慮した構造・工法など計画段階から執行に至るまで環境に配慮したものとなるようにし、工事入札段階では、総合評価落札方式の導入を検討し、環境の保全及び省資源対策等の提案を評価要点に取り入れるように努める。

### ◆成果指標

成果指標名	単位	基準値 (2004年)	実績 (2010年)	目標値 (2010年)
公共工事で使用する砕石及びアスファルトコンクリートの再生利用率	%	93	98.9	95
公共工事で発生する土の再利用率	%	95	100.0	95
公共工事で使用する非熱帯材併用型枠、金属型枠及びプラスチックの代替型枠の使用、並びに転用型枠の使用率	%	62	67.9	65
公共工事で使用する再生品（あいくる材）の利用率	%	96	100.0	98
公共工事の施工における環境配慮型建設機械の使用率	%	—	100.0	90

### ◆平成22年度の実績状況

平成22年度の総工事件数は446件あり、そのうち環境負荷を低減する資材等の利用促進を図る環境配慮項目が1,190件実施された。この結果、成果指標の2010年目標値5項目全てにおいて目標値を達成している。また、2020年の長期目標についても5項目のうち4項目は達成しており、環境配慮型公共工事は概ね定着している状況である。

## 協働

### 地域協議会「エコネットあんじょう」の設置

#### ◆目的

市民、市民団体、事業者、市が相互に連携し協働で環境保全を推進するための地球温暖化対策地域協議会を設立し、地球温暖化などに代表される地球環境問題や大気汚染、水質汚濁、ゴミの増加などの地域における環境問題を協働により解決することを目的とする。

#### ◆長期目標

◎この地域協議会が、計画策定された環境基本計画の具体的な施策を実際に市とともに推進していく組織として育つことをめざす。

#### ◆内容

・地域において地球温暖化対策に継続的、組織的に取り組むことを目的として市民、市民団体、事業者、市が相互に連携し協働で環境保全を推進するための地球温暖化対策地域協議会を設立する。「エコネットあんじょう」を発足する。

#### ◆成果指標

成果指標名	単位	基準値 (2004年)	実績 (2010年)	目標値 (2010年)
地域協議会設置数	協議会	0	1	1

#### ◆平成 22 年度の取組状況

##### 地球温暖化対策地域協議会エコネットあんじょうとの協働による環境活動

「地球温暖化対策地域協議会エコネットあんじょう」との協働により、様々な環境活動や環境講座を実施した。

#### ●活動内容

- ・あんじょうエコカレッジ
- ・環境講演会
- ・機関紙の発行
- ・はんば川クリーン活動
- ・河川水質調査
- ・子ども環境講座
- ・樹木調査会
- ・野草観察会
- ・ミニ・エコセンター事業
- ・ごみ減量講座
- ・分別ソムリエ養成講座
- ・公園の清掃活動
- ・ガーデニング・緑のカーテンコンテスト
- ・いきいきウォークラリー  
など



はんば川クリーン活動



子ども環境講座



分別ソムリエ養成講座



いきいきウォークラリー



## 市民による省エネ行動等エコライフの推進

### ◆目的

市民によるエコライフを推進するため、各家庭での電気・水道等の使用量の削減を推進するキャンペーンを行うとともに、市民が工夫・実践するエコライフのコンテストを実施し、優秀なものを表彰し市民に紹介することにより環境意識の普及を図る。

### ◆長期目標

◎エコライフキャンペーン及びコンテストの継続的な実施により、市民レベルでの省エネ、省資源に対する意識の定着化を図り、市全体における二酸化炭素等の温室効果ガスの排出量削減につながることをめざす。

### ◆内容

- ・各家庭での電気・水道等の使用量において、1年のうち最も使用量が増大する夏季の実績を前年度実績と比較し、削減できた家庭を募集するキャンペーンを毎年実施し、省エネの推進を図る。
- ・日頃から省エネ、省資源につながる行動を実践している市民から、エコライフのコツとなる事例を募集するコンテストを実施し、優秀事例を表彰するとともに広く市民に紹介することにより情報の共有化を図る。

### ◆成果指標

成果指標名	単位	基準値 (2004年)	実績 (2010年)	目標値 (2010年)
エコライフキャンペーン実施回数 (D30 チャレンジモデル事業含む)	回/年	0	1	2
エコライフコンテストの実施	実施	未実施	未実施	実施済

### ◆平成 22 年度の取組状況

#### ダイエット 30 チャレンジモデル事業

「診断」を通じて初期投資が高くて元が取れる等、その世帯にとって行動しやすい具体的対策の提案により、太陽光発電の設置や高効率機器への買い換え促進を含む行動を支援した。101世帯の皆さんに実践してもらった。

CO<sub>2</sub>削減量の合計は53,958kg/年、世帯平均のCO<sub>2</sub>削減量は886kg/世帯・年、約13.5%のCO<sub>2</sub>削減となっている。

#### ①CO<sub>2</sub>排出の平均比較とランキング 自分の“立ち位置”を認識する



#### ②必要な削減量の理解と目標の明確化 現在地の確認と目的地の設定



#### ③CO<sub>2</sub>排出分析 “どこから”“どれだけ”出ているか



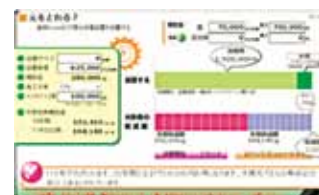
#### ④分野ごとの対策 排出割合が多い分野、興味のある分野を選択する



#### ⑤効果的な対策の選択 確実なCO<sub>2</sub>削減への道しるべ



#### ⑥対策ごとの詳細な情報 光熱費の削減で元が取れるか?



診断イメージ

## 環境アドバイザー派遣の推進

### ◆目的

環境アドバイザー派遣制度をあんじょう市民活動情報サイト等でPRし、学校・地域の団体に派遣し、環境学習を推進する。

### ◆長期目標

◎ 2020年までに環境アドバイザーを年間40回以上の派遣ができる体制づくりをする。

### ◆内容

- ・地域の環境活動の推進役として登録された環境アドバイザーを小中学校を始めとして町内会、市民自主グループ等の団体の要望に応じて派遣する。
- ・今後、環境アドバイザー同士の連携を深めるために定期的な連絡会等を行い、派遣の推進のために環境学習プログラムの充実を図る。
- ・環境アドバイザー派遣制度を市民に周知するためにホームページ、市民活動情報サイト、広報等でPRするとともに環境アドバイザー自身による機関誌の発行をめざす。

### ◆成果指標

成果指標名	単位	基準値 (2004年)	実績 (2010年)	目標値 (2010年)
環境アドバイザー派遣回数	回/年	7	99	50

### ◆平成22年度の取組状況

#### 環境アドバイザーの派遣

環境学習の講師として、小学校などに99回出向いた。

また、環境アドバイザーの知識の充実を図るため環境アドバイザースキルアップ講座（全4回）を開催した。



環境アドバイザー（環境クリーンセンター）



スキルアップ講座

## 学校教育における環境学習機会の充実

### ◆目的

環境問題・環境保全に向けた研究や作品づくりを奨励し、そこから生まれた作品を「かがくのひろば」や「教育展」「校内作品展」において展示し、環境意識を啓発する。

### ◆長期目標

◎ 2020年までに、環境問題・環境保全に関する児童生徒作品を100点以上展示する作品展（かがくのひろばや教育展、校内作品展）を開催し、環境教育の一層の推進を図る。

### ◆内容

- ・児童生徒の身近な自然や社会現象などに目を向け、環境問題に気付かせ、その解決に向けて研究したり作品をつくったりすることにより、環境教育の一層の充実を図る。
- ・環境教育に関する作品展に向けて、総合的な学習の時間や教科指導を始めとする教育活動全体の中で総合的に取り組む。
- ・作品展については、学校だよりやホームページ等で家庭・地域に広報し、日ごろの学校での環境教育の取組を具体的に知ってもらう機会とする。

### ◆成果指標

成果指標名	単位	基準値 (2004年)	実績 (2010年)	目標値 (2010年)
作品展展示点数	点・年	0	177	100

### ◆平成22年度の取組状況

#### 「かがくのひろば」開催

かがくのひろば（1月21日～23日、文化センター）にて環境作品の展示（小学校128点、中学校49点）。うち「かがく大賞環境賞」4点選出して作品展示。市村アイデア賞には環境作品206点応募。



家族で環境を考える（かがくのひろば）